

第八講 シュメール人の国家論（古典学説） —第二次世界大戦以前—

シュメールの国土と人口

人口：100 万人以上（自由人）

都市国家はモザイク状に点在

20 キロ間隔

ウルから南のエリドゥが見える

ウル：最大の人口（ウーリーは 36 万人、フランクフォートは 20 万人と推定）

シュルパック：16 万人

ラガシュ：10 万人

地積：12,579 平方キロ（アッカド時代の碑文より；新潟県：12,583.83km²）

17 の行政区と 8 つの行政区 *maš-ga-na sag*

ラガシュ：1,572 平方キロ（香川県：1,876.55km²）

都市複合体

ラガシュ：ラガシュ・ニーナ・ギルス・エニンマルなど

神殿領：エンリル神・バウ神などの神殿領

王領

私有地

シュメール国家・社会のモデル

1. マルクス

国王国土総有説←『旧約』「創世記」47. 19-22.

ヨセフ・ファラオによるエジプトの農地購入

私有地の欠如

アジア的共同体所有

大家族

不変

2. ウェーバー

封建的關係（王の兵士）

小家族

私有地

3. 神殿国家論

P. A. ダイメル、A. シュナイダー

教皇庁所蔵のタブレットを研究

ラガシュの神殿領中心に研究

ラガシュの都市領を 2~300 平方キロと見積もる

(実際には 1572 平方キロ)

神殿共同体：マルク共同体と見、定期的土地の割替えを伴う。

土地私有は存在せず。

神殿領：都市領と同じ。

神殿所属員：都市住民と同じ。

神殿国家の変質と解体：

初期王朝第 3 期末・・・王による神殿領篡奪

ウル第三王朝・・・私有地と賃金労働者の発生

イシン・ラルサ時代・・・神殿経営体の解体